

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》○岩瀬義昭 本家寿洋 坂上哲可 浅野葉子 朝日まどか 木村恵 桜庭聡

【概 要】

本講義は主にディプロマ・ポリシーに掲げられた「(2) 関係職種と連携できる実践的能力を身につけている。(3) 保健・医療・福祉の分野において地域包括ケアの視点をもって専門技術を提供できる能力を身につけている(4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる能力を身につけている」の3条件を満たすため重要な位置を占める。

作業療法の対象となる各々の疾患のどのような特徴が身体機能・精神機能の障害を引き起こし、それが日常生活上の活動や参加にどのように影響し波及していくのかを学習する。同時にその解決策を自身の知識の中から模索する。

また、作業療法の治療に関わる内容として、各々の疾患に対する急性期・回復期・維持期のリスク管理と基本的な治療展開および技術を学習していく。

【学習目標】

本講義の目的は、各疾患における作業療法の治療概念を理解することである。

1. 各疾患における作業療法実施時のリスクを説明できる。
2. ICFを使用して、各疾患における作業療法の治療方針までの考え方を説明できる。
3. 各疾患における作業療法の治療に関する知識を説明できる。
4. 各疾患における作業療法の治療変化に対応できる考え方を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 }	脳血管障害の作業療法(1)	急性期における作業療法の治療を学ぶ。	本家寿洋
2			
3 }	脳血管障害の作業療法(2)	回復期・維持期における作業療法の治療を学ぶ。	本家寿洋
4			
5 }	脳卒中のエビデンスと予後予測	脳卒中治療ガイドラインに沿って、評価および治療の推奨レベルと予後予測を学ぶ。	本家寿洋
6			
7 }	末梢神経損傷の作業療法	末梢神経損傷の作業療法の治療を学ぶ。	岩瀬義昭
8			
9 }	骨折・切断の作業療法	骨折・切断の作業療法の治療を学ぶ。	岩瀬義昭
10			
11 }	整形疾患の作業療法	腰痛・変形性関節症・腱板損傷の作業療法の治療を学ぶ。	岩瀬義昭
12			
13 }	COPDの作業療法 (課題提出)	COPD(慢性閉塞性肺疾患)の作業療法の評価および治療の学習は、同課題のレポート提出に置換する。	岩瀬義昭
14			
15	中間のまとめ	中間のまとめは、遠隔授業にて行う。	全員
16	治療計画・治療実施	リハビリテーション総合実施計画書、クリニカルパス、地域連携パスについて学ぶ。	岩瀬義昭
17 }	関節リウマチの作業療法	関節リウマチの作業療法の治療を学ぶ。	岩瀬義昭
18			

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
19) 20	神経変性疾患の作業療法(1) (課題提出)	パーキンソン病の作業療法の治療の学習は、同課題のレポート提出に置換する。	岩瀬義昭
21) 22	神経変性疾患の作業療法(2)	脊髄小脳変性症と筋萎縮性側索硬化症の作業療法の治療を学ぶ。	岩瀬義昭
23) 24	神経・筋疾患の作業療法 (課題提出)	ギランバレー、多発性硬化症、重症筋無力症の作業療法の治療の学習は、同課題のレポート提出に置換する。	岩瀬義昭
25) 26	脊髄損傷の作業療法	脊髄損傷の作業療法の治療を学ぶ。 特別講師：小渡充	本家寿洋
27) 28	がんの作業療法	がんの作業療法の評価および治療を学ぶ。	本家寿洋
29) 30	ICFを使用しての治療方法 (課題提出)	ICFを使用して、評価の要約、目標、治療方針、治療プログラムまでのプロセスの学習は、同課題のレポート提出に置換する。	岩瀬義昭

【評価方法】

レポート課題30%と定期試験70%で評価する。

【備考】

教科書：岩崎テル子 編 「身体機能作業療法学 第3版」 医学書院 2016年

参考書：日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害」 協同医書出版 2014年
大嶋伸雄 編 「身体障害領域の作業療法」 中央法規 2012年
長崎重信 編 「作業療法ゴールドマスターテキスト4 身体障害作業療法学」 メジカルビュー社 2013年
古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 編 「がんのリハビリテーションガイドライン」 2013年
二瓶隆一 他 編 「頸髄損傷のリハビリテーション」 協同医書出版 2013年
西林保朗 監修 「リハ実践テクニック 関節リウマチ」 メジカルビュー社 2014年
上月正博 編 「新編 内部障害のリハビリテーション」 医歯薬出版 2015年
亀田メディカルセンター 編 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」 メジカルビュー社 2013年
島崎寛将 他 編 「緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション」 中山書店 2014年
Jill Cooper 編 三木恵美 他 監訳 「がん緩和ケアの作業療法」 三輪書店 2013年
Peter G 著 金子唯史 翻訳 「エビデンスに基づく脳卒中後の上肢と手指のリハビリテーション」 2014年
Anita Atwal 他 著 金子唯史 監修 「エビデンスに基づく高齢者の作業療法」 ガイアブックス 2014年
道免和久編 「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」 医学書院 2013年

【学習の準備】

1. 基礎となる解剖学・生理学・解剖生理学・運動学等の知識が必要となる科目である。復習・再学習を怠らないこと。
2. 2年次に行った身体機能評価学Ⅰ、並行して前期に実施される身体機能評価学Ⅱを復習して、授業に臨むこと。
3. 各疾患・障害を理解して授業に臨むこと。
4. 教科書・授業時に配布した資料を基に、講義内容は必ず復習すること。
予習：授業内容の把握と事前学習 80分。
復習：授業内容と1.、2. に掲げた他の教科との照合、理解に80分。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる能力を身につけます。

【実務経験】

岩瀬義昭（作業療法士） 本家寿洋（作業療法士） 坂上哲可（作業療法士） 浅野葉子（作業療法士） 朝日まどか（作業療法士）
木村恵（作業療法士） 桜庭聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、担当する講義を行う。